

# 娘 娘 祭 (にゃんにゃんまつり) 矢島勝昭

●「普蘭店をば後にして/大石橋を過ぎ行けば/北は奉天、公主霊・・・」。詩人土井晩翠が詠んだ大石橋(だいせっきょう)は中国東北部、旧南満州鉄道の大連と奉天(瀋陽)の中間にある。その大石橋の西南3キロには迷鎮山という山があり、麓には娘娘廟という廟がある。

●「明治七年春弥生/わが聯隊は生まれたり」と野口雨情作詞の聯隊歌に詠まれた水戸歩兵第二聯隊へ、二十歳で入営した雑司が谷の岡野誠(1908-39)は、この南満州へ三度ほど軍靴を運んでいる。即ち、長春での初年兵訓練のとき、次が満州事変でチチハル守備のとき、さらに日中戦で負傷し旅順兵站病院入院のときである。

●誠が大陸から父寅造へ送った絵はがきの中に、大石橋の「娘娘祭」という一枚のモノクロ写真がある。今はもう薄暮のように色褪せてしまったが、中国風の長い軒が反り返った廟を囲んで、沢山の出店のテントに人が群がり、それが右手の山の頂までジグザグに連なっている。毎年4月半ばの五日間、十万人の人が押し寄せたという娘娘祭には、次のような伝説がある。

●塩車を引いた若者が大石橋へ向かっていたところ、道端に屈みこんでいた三人の娘が「乗せてください」という。牡丹の花のように美しい娘たちだった。若者は荷が重いので一度は断ったが、疲れ果てた姿を哀れんで乗せてやった。やがて迷鎮山の麓までさしかかると、ふと荷が軽くなったので振り向くと、娘たちは既に車を降りて山へ駆け上っている。登り詰めると、不思議や、まぶしい光に包まれ、空の青さへ溶け込んでしまったという。村人は、きっと天女に違いないと、廟を建てて祀り「娘娘廟」と名づけたというのだ。

●昭和四年、詩人北原白秋は、ここを旅して詩を詠んだ。「娘娘祭にゆく人は/驢馬、驢馬、幌馬車に高足駄/娘娘祭はたのしいな/行列、出し店、人いきれ、娘娘福寿をおさずけに/娘娘この子がまめなよに/ビーヤボンボンじゃんがらぼん/旗ふり鉾ふり高足駄/娘娘どこゆく花嫁御、月宮殿へのぼってく」

●一時目白に住んでいた白秋と、少年のころ大塚の印刷所で働いていたことのある作曲家

山田耕筰とのコンビが生んだ叙情歌「からたちの花」は有名だが、二人は当時20万を越える日本人が暮らす満州へも足を運び、学童たちへ「待ちぼうけ」「ペチカ」など、幾つかの唱歌を残している。誠の絵はがきにも「兵営のペチカ」がある。

●誠が長春で始めて求めた絵はがきは、日露戦跡のものばかりだったので、「まもなく風景写真が入るので送ります」と父へ書き送っている。「娘娘祭」はその中の一枚である。しかし画家を志す誠にとっては、数次にわたる軍役は痛かったに違いない。そんな彼の心の慰めとなったのは、熊谷の遠戚の静子さん、喜久子さんという可愛らしい娘さんとの自筆の絵手紙の交換だった。これは内地、戦地を問わず続いた。二人の娘さんが、たまたま泊りがけで、誠の母から裁縫の手習いに来ていた折、除隊で家に居た誠が描いた娘さんたちのスケッチが、今も数点残っている。

●大陸で傷ついた誠が、雑司が谷へ帰ったのは、昭和十四年の夏の終わりで、既に31歳になっていた。二か月ほど戦傷を癒す日々を送っていた誠は、池の蛙の冬眠を見とどけると、初冬のある日、いつもの散歩のようにふらりと家を抜けだし、程近い目白駅まで歩き、そこから帰らぬ旅へと旅立ってしまった。

●没後65年、岡野誠が残した膨大な絵や絵はがきは縁あって私の手元に残された。「娘娘祭」の絵はがきを見ていると、牡丹の花のように美しい伝説の娘たちと、スケッチの静子さん喜久子さん、それに長春でマーチャに乗っている写真の若い誠とが、娘娘祭の人混みのなかに見え隠れしてくる。

参考＝「満州唱歌よ、もう一度」喜多由浩著。



(大石橋) 娘達の待ち焦がれし娘娘祭の盛況 1929年

## まちづくりニュース 62 2004・10

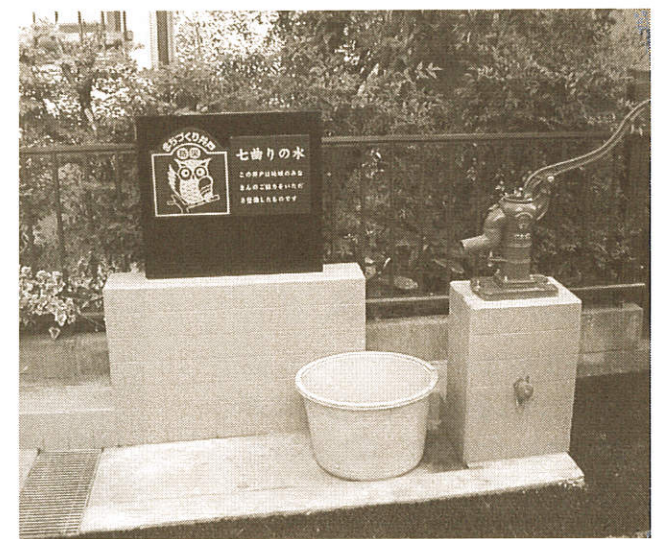
●企画・発行  
池袋南地区まちづくりの会  
豊島区都市整備部住環境整備課  
直通 3981-0489 / 森・中島・鳥居

●編集協力  
株式会社 エコライン  
5706-6031 / 小野  
豊島区広報印刷物

# ぞうじがや

### まちづくり井戸第3号 七曲りの水 完成

池袋南地区防災生活圏促進事業で整備を進めている「まちづくり井戸」の第3号が完成しました。場所は「七曲り」。ここは、近所の方でないと判らないかもしれませんね。鬼子母神の参道、大鳥居の後から右に入る路地があります。この道は本納寺に抜ける道になっていますが、7つの曲がり角があるところからこの名前が付けられました。地区の隠れた名所とも言えるかもしれません。



井戸は道の中にあります。車が入らない道なので、路地の雰囲気の色濃く残っています。これまで、地区のまちづくり井戸は、「番神の水」「柳の水」と「水」の言葉が使われてきましたので、今回も「七曲りの水」という名前になりました。



この井戸はもともと防災井戸としても利用されていました。ポンプをつないで放水訓練を行うと、5分以上放水しても水が枯れないほど、水量が豊かな井戸です。このたびの整備で、井戸の廻りはタイルが貼られ、鉄製の表示板も付けられました。災害時の初期消火や生活用水として利用することができます。また、ふだんから、植木や道路の水やりにも利用することができます。散歩のついでに覗いてみてください。

# 今年も 南池袋小校庭を会場に

## 人のつながりづくり

地域に人のつながりをつくりたい。そんな思いから生まれたのが「防災まちづくりイベント」です。

災害時の対策は、防災課が中心となつてさまざまなことが行われています。防災課が行っている対策と車の両輪のように、連携しながら進められているのが防災まちづくりです。池袋南地区では、事業をはじめ今年で3年目になります。

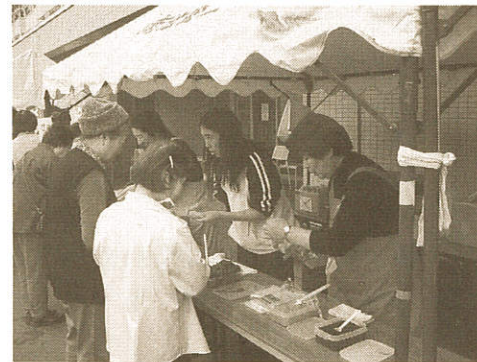
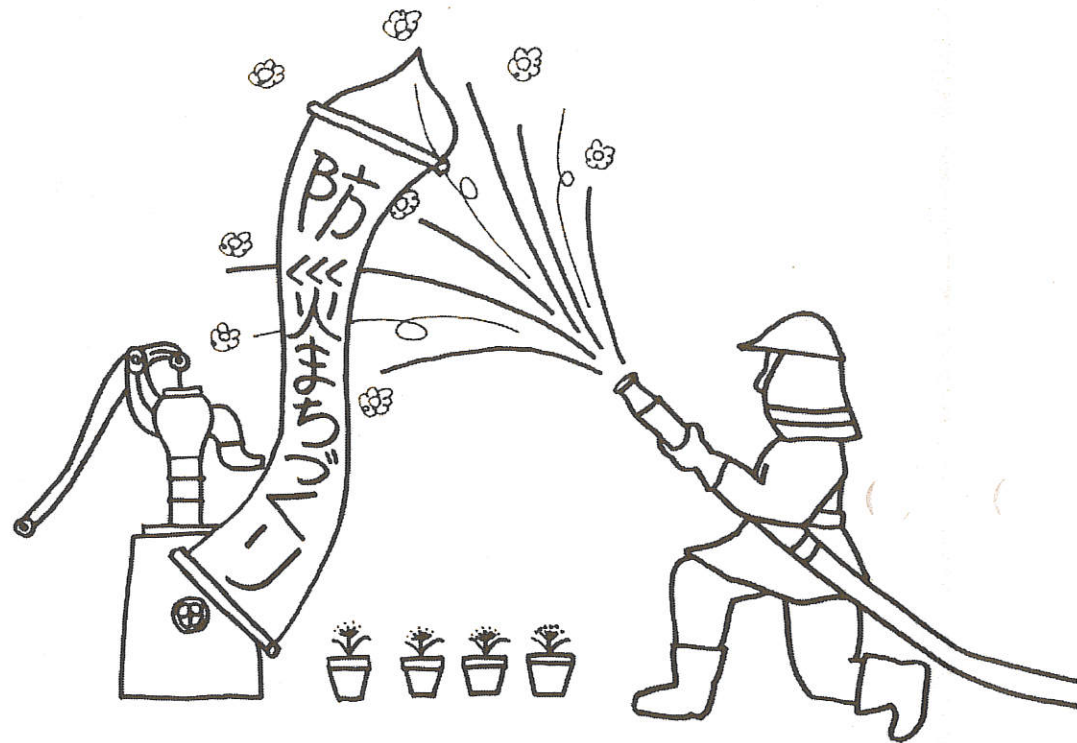
これまでは、まちづくり井戸の整備や電柱の移設によって災害時にも緊急車が入りやすい道路づくりなどを行ってきました。そして、そのような施設の整備と共に、地域の人と人のつながりをつくるために、昨年、はじめて防災まちづくりイベントを開催しました。昨年は東京音大のグラウンドを会場に、たくさんの方々に参加していただきました。

## 楽しみながら学ぶ防災

この防災まちづくりイベントは、防災訓練とは違って、お子さんからお年寄りまで、たくさんの方々が、楽しみながら防災について学ぶことができるイベントです。

いざと言う時に適切な行動を取るためには、普段の訓練が役立ちます。その訓練を、誰でもが楽しく参加できるように工夫しています。

ご家族で、ご近所で、お誘い合わせの上おいでください。



楽しく知る防災まちづくり

# 防災まちづくりイベント

日時：2004年10月31日（日曜日）

午前11時～午後2時

場所：南池袋小グラウンド

小雨決行

## ●防災スタンプラリー

防災に関係する5つのチェックポイントをまわり楽しみながら防災の訓練ができます。スタンプを5個集めた方には花鉢をプレゼント

- ◇投てき水パック
- ◇防災まちづくりの成果
- ◇煙体験
- ◇水消火器
- ◇まちづくり井戸見学

## ●食べ物コーナー

次の食べ物を用意しています。受付でチケットをもらってください

- ◇ソースせんべい
- ◇焼きそば
- ◇ポップコーン

お楽しみいろいろ  
どなたでも参加できます  
お誘い合わせてどうぞ

無料チケット  
プレゼント

## ●お楽しみコーナー

子どもからお年寄りまで楽しめる  
いろいろな出し物にご注目

- ◇ミニ蒸気機関車
- ◇輪投げ
- ◇民族舞踊

花鉢  
プレゼント

主催：池袋南地区まちづくりの会  
雑司が谷地区まちづくり協議会  
南池袋一丁目町会・南池袋二三四町会  
光和会・池袋東口親和町会・青葉会  
雑司が谷一丁目東部町会・柳下会  
東目白本町会・雑司が谷二丁目町会  
雑司が谷三丁目町会  
南池袋東通り商店会（順不同）

協力：南池袋小学校・PTA・おやじの会  
川村学園

事務局：豊島消防署・豊島消防団  
豊島区都市整備部住環境整備課（電話3981-0489）